

令和元(2019)年度学校関係者評価

1 自己評価及び本校教育活動に対する学校関係者評価委員からの意見

- 家庭学習については毎年概ね同じ傾向にある。1年生のうちから、学習の重要性をわからせ、指導したほうが良い。
- 生徒の研究発表が素晴らしかった。各科ごとの取組みは素晴らしいと思うので、それを踏まえて全学科連携して何か一つ取り組めれば良いと思う。マーケティングや市場調査をして、自分たちの商品で検証していくのも良いのではないか。
- 先生方の授業について、主体的、能動的な学びや、アクティブラーニングはどのようになっているか。また、授業公開で見せ合うのは良いが、それだけで終わらせずに授業改善に生かしてほしい。
- 教員のメンタル面への配慮はどのようになっているか。
- 学習障害・発達障害の生徒、心の悩みを持つ生徒へはどのように対応しているか。
- 学校評価アンケートのデータが膨大だが、データの有効活用はできているか。
- 学校評価アンケートには、保護者の自由記述が多くあるが、どのように対応しているか。一方、教職員の自由記述は、数こそ少ないが、取り上げた方が良い。
- 各科の取組みに資格取得があげられており、評価はBである。それらの資格が将来どのように役立つのか等の必要性を生徒が認識すれば、取得に対する意欲がもっと高まるだろう。

2 学校関係者評価に基づく今後の改善方策等

- 家庭学習については、学年を中心とした現在の取組みを、低学年次から、より強化していく。
- 障害を持つ生徒や心の悩みを持つ生徒への対応については、現職教育研修において共通理解と技術の向上を図っている。さらに、月初めには教育相談アンケートを実施し、生徒の悩み等をできる限り漏れなく、かつ即時次に汲み上げる工夫をしている。このような取組みを今後も継続する。
- 教員のメンタル面については、教員評価面談等の機会に、職務やその他のことを含めて聞くようにしており、現在のところメンタル面での悩みは出てきていない。学校医や学校カウンセラーの活用をさらにすすめる。
- 学校評価アンケートにおける保護者の自由記述については、今年度のうちから、できるものについては対応策を考え、検討に入っている。財政的な事情もあって、すぐに対応できないものもある。さらに記述内容を吟味した上で対応を考える。